

甲南21クリエイティブプラン・ディベロップメント
中間報告

キャンパスから始める環境啓発活動

- 「いのち」の環境教育・クラブとのパートナーシップ・地域連携を通して -

2007年7月26日(中間報告)

甲南大学文学部人間科学科 谷口ゼミナール

キャンパスから始める環境啓発活動

- 「いのち」の環境教育・クラブとのパートナーシップ・地域連携を通して -
主旨または目的：

今日、環境問題は年々深刻になってきており、その影響が温暖化や異常気象などの自然現象に顕著に現れるようになってきている。その改善を考えるに当たって、今年度私たち谷口ゼミは環境問題を地球規模で考えることで様々な角度から環境問題を考え、同時に学校・地域単位で活動することが重要であると考えた。体験学習を通じて感じたこと、経験したことを伝えながら、何かしなければと考える人たちを環境活動に容易に取り組めるようにサポートしていく。

昨年度は、「循環型キャンパスを目指した甲南人の環境意識の向上」に努めてきた。その一環として、甲南大学環境教育野外施設（広野）において無農薬農法によるもち米・野菜作りや、現在のライフスタイルを見直す自給自足生活の体験学習を実施した。また、学内においては生活協同組合北館（以下生協北館）の協力によるリサイクル・広報活動を通じた連携の強化に努めた。さらに、神戸市北区にある「あいな里山国営公園」（国土交通省）において、「あいなバイオパーク」（市民団体）の里山保全活動に環境ボランティアとして参加してきた。そして里山の環境の保全、あいなの里山文化及び伝統をヒアリングし、データの収集などに取り組んできた。

今年度「キャンパスから始める環境啓発活動」のプランは、昨年度の活動を受け、フィールドでの活動、校内の活動、阪神地域との連携による活動を通し、環境意識の向上のための啓発活動を推進することを目的としている。

プラン 「体験学習を通じた環境活動 『いのち』の環境教育 」では広野でのもち米・野菜作りや自給自足生活の体験学習を通して、いのちの育みを知り、自分たちが苗から育てた野菜を食べることで、いのちの大切さを見直す。

プラン 「パートナーシップによる環境啓発活動 部活動・学内組織との連携を通じた環境意識の向上 」では、クラブや学内組織との連携や「環境啓発シンポジウム」を通して学内での環境意識の向上に取り組む。

プラン 「地域連携による環境活動のネットワーク KEMS・地域連携プロジェクトを通じて 」では、昨年度に引き続き生協北館において、KEMS認証取得に力を注ぐとともに、「あいな里山国営公園」（国土交通省）での里山村の復興を支援する環境ボランティアを通じて地域との連携を強め、里山文化を伝承し、伝統文化のデータを収集する。加えて、甲南三学園において幼稚園から大学生まで世代を超えた環境教育を行なう。これらの活動によって環境啓発活動のネットワーク拡大を目指す。

プラン : 体験学習を通じた環境活動 「いのち」の環境教育

(1) 不耕起農法によるもち米作り

米作りは、田植えの準備として4月に田起こし、5月に苗床づくり、もみまき、6月8日(金)~11日(日)に田植えを行なった。また10月に稲刈り、脱穀、12月に収穫したもち米を餅にして、収穫祭を行なう予定である。

並行して、3月から田んぼの一部に畦を作って区切り、水を溜め、冬期湛水(冬の時期に田んぼに水を張ること)を始めた。最初は畦から水漏れをしていたが、穴をふさいで修正していくうちに少なくなってきた。しかし4月下旬、農業用水の使用順により水が使用できなくなり、溜めていた水が干上がるという事態が起こった。これはこれからの課題となるだろう。その後は、草抜きをしながら様子を見て、5月の田ごしらえからは、伝統的農法と同じように、水をいれ、田植えを行なった。現時点で見られる二つの田んぼの違いは、不耕起農法で植えた苗の方がやや色が薄い。これはトラクターをかけていないために、土全体に栄養が回っていないからではないかと考えられる。しかし、水を切らないようにすることで、改善されることではないかと考える。



田植えをする尼崎北高校生(高大連携サポート)
(6月9日)

(2) 伝統的農法による野菜作り

4月から堆肥・石灰を撒き、トラクターをかけ、畝を立てるなどの土作りを行ない、5月12日(土)に、甲南大学環境教育野外施設の体験学習のフィールドにおいて、夏野菜のナス、キュウリ、トマト、ミニトマト、ピーマン、シシトウ、オクラ、トウモロコシ、サツマイモ、ゴーヤ、枝豆、落花生、カボチャ、小玉スイカを植えた。また、7月7日(土)には、甲南大学の大学生、親和女子大学生、尼崎北高校の高校生、と共に収穫した。

さらに今年度から、大根や、うすいえんどう豆の種を保存し、来年度にはその種から植えて育て、生命の循環について学ぶことを予定している。



苗を植える学生(農作業の指導)
(5月12日)



うすいえんどうの種

(3) 自給自足生活の体験学習

昨年度に引き続き、8月3日(金)から7日(火)まで5日間、甲南大学環境野外施設(広野)において、自給自足の体験学習を行なう。

前年度は、米作りの際に刈った藁を家の屋根に使ったり、たくさんの方が泊まれるように小屋を大きくしたりと住環境の充実に努めた。今年度も継続し、さらに衣食住以外でも力を入れる。具体的には、空いている時間を使い、竹で楽器を作ったり、絵を描いたり池の生物調査などを行なう予定である。

プラン : パートナーシップによる環境啓発活動

クラブ・学内組織との連携を通じた環境意識の向上

(1) クラブと連携して行なう環境啓発活動

6月15日(金)に茶華道料理部道心会(以下、茶華道)と共に10号館横の花壇に花の苗を植えた。花壇には、種から育てたおしろい花、日々草の苗と、ひまわり、サルビア等の種を植えた。茶華道の部員は、「いつも何も気にせず生けている花を育てるのがどんなに大変か初めて知った」という感想を述べていた。また私達ゼミ生もただ花を植えるだけではなく、花を魅せるという要素も教えてもらった。これからも茶華道の部員と共に花壇の世話をしていく予定である。



茶華道料理部道心会との花壇作り
(6月15日)

6月25日(月)にKSWLと共に、環境についての学内放送を行なった。内容については身近なことから始める環境活動についてお互いの考えを話し合い、それを放送してもらった。これにより、様々な環境活動を甲南人に伝える事ができ、さらにKSWLの部員の方たちから様々な意見を聞くことができた。その意見を今後のゼミ活動に活かしていき、これからの環境活動を更に発展させていきたい。



KSWL との校内放送作り
(6月25日)

(2) 学内組織とのパートナーシップによる環境啓発活動

1. 第7回「環境啓発シンポジウム」の開催の予定

甲南大学環境総合研究所主催「環境啓発シンポジウム」における7つの組織【学生部、管財課、生活協同組合、関西明装(株)警備部、(株)神戸エイコーサービス、(株)対馬造園店、谷口ゼミ】と学生とのネットワーク構築のサポートをする。7つの組織それぞれの立場からの現状を報告し、それを学生が把握する事で、甲南大学の学生自身が環境問題を考え、改善するために行動を起こすきっかけになると同時に、学生とのネットワークの強化につながると考える。「環境啓発シンポジウム」は、例年通り12月に開催する予定である。

2. 学内組織との花壇作りも予定

対馬造園と協力して、秋に花の植え替えの手伝いをする予定である。さらに、文学部事務員の人達と種から苗をつくり、花を植えるといった活動を行なう予定である。苗は八重矢車草を現在種から育てている。

(3) アンケート調査による環境啓発活動の現状把握

全体の環境啓発活動の成果を目に見える形で確かめ、次の活動につなげるためにアンケート調査を行なう。具体的には、クラブの部員に活動の前後、また生協北館の職員にKEMSの認証取得に向けた取り組み前後にアンケートを取る。これらの結果からどれだけ環境意識の向上が図れたかを調べ、成果を確認する。これらの結果を摂津祭で公開したり、生協のホームページの中の情報パックに掲載する事で甲南人の新たな気づきにつながる事が期待できる。今年の5月に生協北館の職員22人に環境意識についてのアンケートを実施した。来年1月に再びアンケートを実施し、KEMS取得前後の結果を比較する予定である。

プラン : 地域連携による環境活動のネットワーク

KEMS・地域連携プロジェクトを通じて

(1) 環境啓発へとつなげるKEMS認証取得を目指して

9月からのKEMSによる環境負荷削減スタートを目指し、4月から毎月生協北館の高熱費や水道代を記録し、環境負荷の実態を資料にまとめている。5月には北館職員的环境意識をアンケートで調査した。また、一番排出量の多い紙ごみのリサイクルを促すため、コピー機の横にミスコピー用紙のサイズ別回収ボックスを設置し、横にリサイクルを推進するポスターを貼った。これらの活動から北館の職員と甲南人の環境意識の向上ができればと考えている。



サイズ別回収ボックスの設置(於:生協北館)
(5月21日)

(2) 「あいな里山国営公園」(国土交通省)における環境教育ボランティア

6月16日(土)に「あいな里山国営公園」(神戸市北区)で活動を行なっている「あいなバイオパーク」の田植えに参加した。昨年度はイノシシの食い荒らしによって稲刈りや脱穀ができなかったが、今年度の現段階ではイノシシの被害はないため、今後は稲の収穫にも参加する予定である。

ヒアリング調査においては、前年度の内容をゼミ生全員で共有するために、テープ起こしを行なって、文章化に取り組んだ。今後はその前年度の資料をもとに、どのようなヒアリングを行なうかをゼミ内で検討するとともに、NPO「自然と友達になろう」代表の三宅氏にも意見を伺いながら、地元の人々にヒアリングをする予定である。



あいな里山公園での田植え
(6月16日)

(3) 甲南三学園における幼・小・中・高・大学間の環境教育サポート

甲南三学園環境教育のプロジェクトの活動として、私たちは 2001 年度以来今年度も甲南幼稚園児から大学生とともに、広野での田植え、稲刈り、脱穀、もちつきなどの米作り活動、及び住吉川環境学習を一緒に行なっていく予定である。

6月9日(土)には田植えを行ない、甲南小学校、甲南中・高等学校、甲南女子中・高等学校の学生に大学生が指導し、環境教育のサポートを行なった。今回、当初天候が悪く、田植えが出来ない状況だったため、その間屋内で竹細工やネイチャーゲームな



田植えをする甲南小学生(6月9日)

どを実施し、天候の回復を待った。その後天候が回復し、全員で田植えを行なった。生徒は初めての田植えを経験し、また蛙やあめんぼなどと触れ合ういい経験になった。また、米作りは天候と深く関係しているということも改めて実感した。